

竹早だより

平成26年度1月号
平成27年1月13日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

本当にやってくる？ 人生100年時代

校長 高田 純一

新年明けましておめでとうございます。平成27年をどういう年にするのか、皆さん一人一人の抱負を大切に、気持ちも新たに3学期に臨んでほしいと思います。

さて、始業式でもお話ししましたが、年末年始のテレビ番組の中で特に印象に残ったものは「NHKスペシャル ネクストワールド 私たちの未来」というシリーズです。その中でも「寿命はどこまで延びるのか」の回を見て、私は衝撃を受けました。

老化を遅らせる薬の開発、予知医療、再生医療などの医療技術の飛躍的な進歩により30年後の2045年には平均寿命が100歳に達するというのです。私は学校説明会などで、「20世紀の最後に生まれた皆さんの中には、22世紀まで3世紀にわたって生きる人が出るかもしれません」という話をするのですが、この番組を見てそういう人が大勢街を闊歩するような光景を改めて思い浮かべた次第です。

ただし、研究の多くはまだ緒に就いたばかりで、実用化には紆余曲折が予想されます。竹早生の何人かがこうした研究に携わり、社会に貢献する人材になってくれたらいいなと思います。山中伸弥教授に続くような活躍を期待します。

年代によって異なる「人生の風景」

人生100年の時代、遠い未来を想像して生き方を決めることが理想的なのですが、30年先、50年先のことを正確に想像するのは、現実的にはなかなか困難なことです。せいぜい2～3年先の「少し先の未来」を思い浮かべてみる程度ではないでしょうか。そこから先は白いもやの中でしょう。それは高校生にとっても、90歳の人にとっても同じだと思います。すると下の図のように人生の風景は、年代によってまったく異なるものとして目に映ります。高校生の皆さんが、90歳の立場で自分の人生を見ることはもちろん無理なことです。しかし、何かに行き詰まった時、90歳の図を思い浮かべて「自分も若いころは、あんなことで悩んでいたんだなあ、今となっては良い思い出だ」とでもつぶやいてみましょう。少しは気持ちが楽になるかもしれませんよ。

<高校生がイメージする「人生」例>

乳幼児	幼稚園	小学校	中学校	高校	の少 未し 来先
-----	-----	-----	-----	----	----------------

<90歳の人イメージする「人生」例>

乳幼児	幼稚園	小学校	中学校	高校	大学	仕事期	リタイア後	の少 未し 来先
-----	-----	-----	-----	----	----	-----	-------	----------------

入試格言シリーズ（その2）

入試格言④ 「安全・安心、記述式」

皆さんは、記述式の問題に対してどんな意識をもっていますか。何となく苦手だなと感じる人もいるでしょう。しかし私は、記述式ほど安全・安心なものはないと思います。なぜなら、記述式には部分点があるからです。80%程の理解で、80点が期待できるわけです。それに対して、選択式は正答以外すべて0点ですから、100か0かという極端な結果になります。私は本能的に、選択式への恐怖感、記述式への親近感を感じてしまいます。皆さんは果たしてどうでしょうか。

なお、入試の採点は、学校のテストの採点よりも機械的であることが多いと思います。学校では教育的な配慮がありますから、採点は厳しめです。答案にぎっしり書き込んだのに「△1点」にしかならず、がっかりした経験もあると思いますが、入試の場合にはやや稚拙な解答でも、部分点が積み重なって意外に高得点となることがあります。

記述式は練習次第でいくらでも得意になるし、解答を書くのも楽しくなっていきます。他の人が恐れるものに積極的に挑んでいくことで一気に道は開けるのです。


〈12月号「お年玉」発想カクイズの解答例〉☆☆☆三つ星取れたかな？

〈問題再掲〉ある駅前に同じ牛丼チェーンの店が2店（A・B）ある。メニューや味、店の造りまで全く同じである。ある人が店に入ろうとして2店を見比べると、Aはカウンターに多数の客がいるのに対し、Bは比較的空いていた。しかしその人は混んでいるAに入った。この理由として考えられることを挙げよ。

☆	①逃亡中の身であったので、人混みに紛れた方が見つかりにくく安全だと思ったから。
	②少し待つことによって空腹感が増し、一層おいしく牛丼を食べられると考えたから。
☆☆	③Aの客は全員喫食中、Bの客は注文待ちで、Aの提供時間の方が早いと思ったから。
	④食べる前に残り1ページの本を読み終えるため、少しの待ち時間がほしかったから。
☆☆☆	⑤どんなに待たされてもイライラしない自分になるための修行をしたいと思ったから。
	⑥混雑していてもサービスは適切であるか、オーナーとして確認したいと思ったから。

（解説）③はレジの列などで実際に体験する。⑤まさか「修行」のために牛丼店に入るとは！
⑥はこの人が普通の客であるという先入観から脱却できたことを評価。「同業他社による偵察」「評論家による潜入取材」等も同類。問題文では「食べる」という表現を巧妙に回避している。すべての手掛かりは問題文に隠されているということを感じておこう。（入試も同じです。）

1月・2月の主な行事予定

〈1月〉	〈2月〉
17（土）大学入試センター試験始	5（木）合唱コンクール
18（日）大学入試センター試験終	11（水） 建国記念の日
26（月）都立推薦入試始	12（木）学力調査（1）始
27（火）都立推薦入試終	13（金）学力調査（1）終
	17（火）都立帰国入試
	24（火）都立一般入試
	25（水）卒業式代休
	26（木）採点日（自宅学習）